# 2023 年度　総合政策学部 FD 活動報告

総合政策学部では、2023 年度の FD 活動の方針として以下の 3 点を挙げた。

① 2022 年度より新たな内容と態勢でスタートした「総合政策基礎演習 B」について、昨年度実施で把握された問題点などの解決を図りながら、引き続き適切な情報共有と点検を行なう。また、「総合政策基礎演習 A」「総合政策基礎演習 C」と合わせ、学部の初年度教育の基幹となる科目としてより効果的なものとしていくための検討を行なう。
② 総合政策学部の履修要項には、その適用対象に応じて日本語を履修する学生/日本語を履修しない学生の 2 種類の履修要項が存在し、また、春と秋と入学時期の異なる学生が存在することから、複雑なカリキュラムになっている。こうしたカリキュラムを踏まえて確実な学生指導につなげられるよう、教員の知識とスキル向上を図る。
③ 近年の学生の多様化やそれに伴うニーズの変化を踏まえ、これからの総合政策学部がめざすべきフィールドワーク科目とはどのようなものなのかについて検討を進める。

以上の 3 点について、総合政策学部では 2 回の FD 研修会を開催した。その内容は以下のとおりである。

**① FD 研修会「秋学期入学生カリキュラムの再確認と運用上の課題について」（2023 年 7 月 12 日），Q 棟 5 階　52 会議室，参加人数 21 人，講師：山口和代教授（総合政策学部）.**

総合政策学部は、Nanzan Asia Program（NAP）にみられるようにアジアとの結びつきが強く、伝統的にアジアからの留学生を多く受け入れてきた。そのため、春学期入学生のみならず、秋学期入学生が一定のボリュームをもって在籍している。そのため、春学期入学生と秋学期入学生のカリキュラムが、それぞれ存在感を持ち複雑な構造となっている。そこで、まず秋学期入学生の教育に深く山口和代教授に講師を依頼し、そのカリキュラムの内容をご説明いただくとともに、その課題を列挙していただいた。

それによると、①プロジェクト研究に参加するタイミングが春学期入学生と半期ずれること、②早期卒業制度を利用するには春学期入学生よりも限られた期間に多くの科目を修得しなければならないこと、③総合演習は成立の経緯上プロジェクト研究とは異なるため必修ではないがその理解が難しいこと、④留学生が試験を英語で解答するといった課題が示された。

また、今日では解消されつつあるが、コロナ禍での問題点として、留学生が日本人学生と接点をもつ機会に恵まれず、日本語能力の伸びが抑えられたことが指摘された。

② FD 研修会「プロジェクト研究と政策実践科目の振り返りと今後の運営」（2024 年 2 月 1 日），オンライン会議（Zoom），参加人数 22 名，講師：佐藤創教授（総合政策学部，学科長）.

プロジェクト研究は、毎年 10 月から 12 月にかけて三次にわたって選考がおこなわれる。その選考過程は、総合政策学部の特色に見合ったものとして形作られてきた。とくに、総合政策学部は、各教員の専門領域が離れているために、学生の希望と各プロジェクトとのマッチングが課題となる。

これに対して、2020 年度より拡大を見せた新型コロナウイルス感染症の影響は、選考プロセスに変更を生じた。すなわち、対面での面談や説明会がおこなわれなくなり、動画やオンライン会議での選考が主体となった。

さらに、学生の志向も変化が生じている可能性がある。実際に、2020 年以降、第二次選考、第三次選考に残留する学生が増加する傾向にある。また、政策実践科目でも、海外研修の参加者が限られるようになってきた。

こうした課題を背景に、出席者からは、2019 年度以前の方法を回顧する意見が多くみられた。また、2024 年度以降のプロジェクト研究については、ワーキンググループを設けることが決定された。なお、プロジェクト研究に関する議論が長時間にわたったため、政策実践科目に関する議論は一部にとどまったが、これについても 2024 年 3 月時点でワーキンググループを立ち上げ、既に検討が始まっている。